

第6回 世界に誇れる環境先進都市かめおか協議会
当日の進行及び議事要旨

◇開 会

◇市長あいさつ

《協議事項》

(事務局説明)

(1) 亀岡市プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例(素案)について

ア 条例の考え方について

イ 市民・事業者に対する補助について

ウ 代替品(紙製袋)について

(京都府南丹保健所)

- ・ 条例素案の11条の違反者の公表で、勧告に従わなかった場合とあるが、これは事業者名も含めて公表するのか。
- ・ 同条第2項に意見を求める機会を与えるという行政手続法による弁明の機会を与えるものだと思うが、意見を求めて、情状酌量の余地はあるのか。

(事務局)

- ・ 公表については、事業者名も含めて公表します。
- ・ 弁明については、それぞれ内容によると思いますが、情状酌量の基準というのは現時点では持ち合わせていませんが、事業者の実情を加味しながら、条例の規定によって、厳正に対応していきたいと考えています。

(湯の花温泉観光旅館協同組合)

- ・ 第7条に市の支援とあるが、具体的に何か決まったものがあるのか。

(事務局)

- ・ 今、具体的に、これ、というものはありません。事業者の皆様からも具体的な内容のお話はいただけていません。状況を見ながら協議をし、調整を図りながら進めていきたいと考えています。

(湯の花温泉観光旅館協同組合)

- ・ 補助金という形になると思うが、紙袋に変えるとなると、負担が大きくなるのではないかと。スーパーやコンビニは枚数も多いので大きな課題になると思う。そこは一考いただきたいと思う。

(事務局)

- ・ 今後調整を重ねながら、例えば、レジ袋として提供できるものが紙になる、という時は、有料化になり、市民が費用を負担されることとなります。そのような市民理解を求める

ことも、事業者の支援につながるのではないかと考えています。

(保津町自治会)

- ・ 8月20日からレジ袋有料化になった。前月の会議でもさほど大きな混乱はなかったと聞いており、有料化については、市民も理解していると感じた。しかし、来年8月からはレジ袋禁止になる。市民は、レジ袋をいろいろな用途に使っている。全くなくなるといふことに市民の理解が得られるのか。消費者に理解をいただくために、市は時間と労力を惜しまず、努力していただきたい。
- ・ 亀岡に来る旅行者等のためにも、旅行業者に対しても徹底して話をしてもらう。
- ・ いかにも市民の理解が得られるかが重要で、実施する市だけでなく、事業者もレジ袋がなくなることを今から徹底して伝える。市民の理解が得られれば、代替がなくても、市民は納得すると思う。消費者も考えると思う。
- ・ 条例を出すために、素案は必要だろうが、市は時間と労力を惜しまず、事業者も協力いただき、啓発をしてもらいたい。自治会でも、何か事業があれば、その際には言っていきたいと思っている。前もって、積極的にレジ袋がなくなることの宣言をしなければならぬと思う。

(会長)

- ・ 今からもっと時間をかけろということか。

(保津町自治会)

- ・ いまからもっと活発にしろということだ。

(事務局)

- ・ 今後、自治会単位で地元に入っていき、これからは市民の皆様の御理解を得るためにさらに丁寧に、市民説明会をこの秋から進めていきたいと考えています。
- ・ 亀岡に来られた観光客も含めて説明を進め、関係課、事業者に対しても協議をしながら、周知を進めていきたいと考えています。

(会長)

- ・ 事業者、観光業者、市、立場の違いはあると思うが、これをまとめていかなければいけない。消費者の立場としては、どう考えるか。

(かめおか霧の芸術祭実行委員会)

- ・ 大事な意見だと思う。いかに積極的に周知・啓発活動できるかについて、前向きなご意見なので、すごく励まされる思いがする。改めて、有料化から廃止となり、いかにどれくらいエコバッグを持参する方が増えるのかが重要なポイントだと意識した。
- ・ 先日イタリアの小さな街に行ったが、買い物をして袋の提供がない。交渉したが袋はないと言われた。それが提供しないまちということで、過剰なサービスのために環境のために不要なものは提供しない、という意識の高いまち、ということで強気に取り組んでいいんだ、という印象を持った。

(NPO法人亀岡子育てネットワーク)

- ・ 有料化だからレジ袋があるという前提なので混乱はなかったが、禁止になるとまた違う。

自治会での説明会に出席される方はそれなりの方、意識の高い方だろうし、そうじゃない方への啓発をどうしていくかも大事だと思う。

- ・代替として紙製のレジ袋を提供することになった場合を考えると、他市ではごみの分別をもっと進めていると思う。亀岡市も、出し方の分類をもっと増やす方向に進んでくれればいいと思う。

(事務局)

- ・市民への啓発はしっかりと進めていきたいと考えています。周知方法についてですが、どこへでも出向いていきたいと考えています。現在も、大小関わらず、お声掛けをいただいたところにはどこへでも出向いてご説明させていただいています。
- ・レジ袋が紙に変わった後どうなるのか、リサイクルのビジョンをしっかりと示すべきではないかという意見もいただきました。ゼロエミッション計画もありますので、使命の一つとして取り組んでいきたいと考えています。紙袋に代わって紙ごみが増えてごみが増えた、ということにならないようにやっていきたいと思っています。

(会長)

- ・事業者としても、消費者の理解が得られればスムーズに移行できるのではないかと思います。
- ・嵯峨野観光鉄道さんは、120万人を超える観光客を迎える観光業としてどう考えているか。

(嵯峨野観光鉄道株式会社)

- ・今もあったとおり、120万人を超えるお客に乗車いただいている。当社もレジ袋有料化を始めており、社内では、客の抵抗もあると思っていたが、結果としては大したことはなかった。
- ・扱う品物がコンビニとお土産屋とは違い、アイスはあるが濡れた物はない。アイスは土産ではなくその場で消費されるものである。
- ・外国人の客は、ほとんどの方がいないと言うことを目の当たりにした職員が多かった。
- ・商品の構成が違うことは大きいと思う。弊社では紙の小袋を用意しなければならないと思うが、有料化から禁止になっても対応できるのではないかと考えている。

(会長)

- ・旅行業者にはあまりエコバックを持ってきてくれとかあまり伝えていないか。

(湯の花温泉観光旅館協同組合)

- ・言っておいたらいいと思うが、大手のいわゆるリアルエージェント（旅行代理店）に言ったとしても、客がいつ亀岡に来るかわからない部分もある。
- ・一番効くのはチラシだと思う。観光客も見たらすぐにわかる。有料化したスーパーに貼ってあるポスターを前回の会議時に頂いたが、あまりに大きすぎて旅館に貼るのはちょっと、と感じた。
- ・この前にセールスで台湾に言ったが、ホテルの隣のコンビニで商品を買うと、有無を言わず袋の提供がなかった。それが定着している。
- ・意識の改革ということで、外国の方も国内の方もホームページで申し込まれることが多

いので、そこにも記載するなど方法か。あとはやっぱり広告物、POPを作ることが市民への周知にはいいのではないか。

(亀岡商工会議所)

- ・国が有料化を打ち出した。有料化に関してはもうそういう方向性である。今後は、できることなら、市内で来年8月より前に禁止をするという事業所が出てきてもいいのではないかと考えている。啓蒙活動としても、禁止を消費者も実感するものになるし、禁止になると市がどのような支援が必要なのかというデータを取ることもできる。市民や観光客の意見も取れると思う。
- ・来年にはスタジアムができる。大河ドラマ館もできるが、そこでは配布しないとか、禁止にするとか。亀岡祭でも配布しないなどすれば、来年8月を待たずして、ある程度の啓蒙ができるのではないか。実験的に事前に協力するという事業所があるのなら、1~2か月のスパンでやってみてもいいのでは。

(事務局)

- ・試行になると言えるかわかりませんが、ユニクロさんは、紙袋にして有料化をされます。亀岡の店舗から起点にできないか、ということで、大きな企業もそういう方向に進んでいます。小さなまちですが、亀岡からこういう発信をしていけないかというお話があります。そういうことも含めて、自発的な動きがあり、そういう声をいただければ、市もお手伝いしながらやっていきたいと考えています。

(協同組合亀岡ショッピングセンター)

- ・8月20日から有料化し、マイバッグ持参率が75~80%になった。
- ・もう一度確認するが、来年8月からレジ袋禁止、が必要なのか。環境問題であれば、他のペットボトルをはじめとするプラスチックごみの規制はどうするのか。
- ・マイバッグ持参率向上が先ではないか。代替案が具現化されてから禁止ではないのか。市がプラごみゼロを考えるのであれば、市だけで解決できる問題ではないのではないのか。

(事務局)

- ・そういう御意見は前回もいただいていたいました。レジ袋の提供禁止を実施する目的は、レジ袋が一番身近な使い捨てプラスチックであるからです。あくまでもこれは到達点ではなく、これがスタートであって、もっと大きいターゲットはペットボトルであり、目指すべきところはもう少し上にあると思っています。今後順次、意識を広げて、使い捨てプラスチックごみゼロを目指していきたいと思っています。
- ・亀岡市がなぜやるか、というお話ですが、どこかがやらないと全国に広がりません。これまでそういうことに取り組んできた私たちが手を挙げるということ、また、8万数千人レベルの市ができるなら、他の市でも同じことをできると思います。このことを示すことで、この流れが一気に広がると思っています。

(一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会)

- ・紙袋の件で、単価が20~30円。コンビニのレジ袋はスーパーの1/3から1/4の重さのものを使っているが、仕入単価は小さなもので1円を下回っている。大きいもので3

～4円。コスト的に無理。有料化で相殺というが、コンビニの客単価は500～600円、利益率は10～20%。売れば売るほど紙袋であれば赤字になる。中小の方はもっと大変ではないか。そのあたりの支援が具体的にならないと、はい分かりました、とはなかなかいかないだろう。

- POPが提案されたが、各コンビニもほぼ同じようなものを使っているが、削減はできても削減率には具体的な効果はない。条例を出すというなら、明確に禁止、というものを用意した方がいい。
- 段階的に進めてほしい。弁当、おでんがなければ、反対はしない。しかし、弁当やパスタは主力の商品。販売ができない、あるいは販売量が著しく下がることになる。
- 素案に対してだが、スーパーやドラッグストアなどで商品として販売しているレジ袋も禁止になるのか。
- 紙に変えることによって数十倍の重量になり、運ぶ時のCO2の排出量も増える。トータルにそこまで含めて考えているのか。
- 容器包装リサイクル法では、事業者はごみの重量によって支払いが発生する。そのあたりもわかっている素案なのか。

(事務局)

- 紙に代わると重量が増えることは確かだと思います。マイバッグ持参率は80%程度ですが、100%が目標で、しっかりと進めていきます。皆さんにエコバッグを持っていたく施策をやっていきたくて考えており、紙も極力減らして、できるだけCO2も削減したいと思っています。
- ポスターも、前は禁止ありきはやめてください、ということでしたので今回の内容にしましたが、段階的という意見もいただきましたので、内容を変えながら作っていきたくて考えています。
- コンビニの主力商品である暖かい商品で、紙袋を持って買いに行ったりしました。だいたいコンビニには車で行かれる方が多いと思いますし、移動距離は短いという想定をしていました。その中では問題はないと考えています。暖かい商品でも、入るか入らないかはありますが。紙でもOKかな、と考えています。

(一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会)

- 入るか入らないが一番大事だが、台湾にしても諸外国にしても、禁止に関しては海外では数年前から議論して、現在に至っているが、日本ではようやく有料化の議論になっているところであり、一律に考えられないと思う。
- 最初はトラブルになる。客が弁当を温めて、紙袋出せ、ということになって30円となると、トラブルになる。レジの高校生では対応できない。客と従業員とのトラブルを軽減してほしい、そのために周知期間を設けてください、ということ。
- 通過する人も市民等、の定義に入っているが、通過する人にどう周知するのか。
- 前文で、「流さない意識のつながりの構築」と書いてあるが、わざわざここで書かなきゃいけないのか。流している人なんてそもそもいないでしょ、ということ。あえて書くの

であれば「流れない仕組みの構築」だったら、協力もできるな、と思う。

- 生分解について書かれているが、今までは同時にバイオマスについても議論の対象となっていたと思うが、ここへきてバイオマスの議論が消えている。バイオマスも禁止対象になったという認識でいいのか。
- プラスチック性の袋というのは、成分表示でいうと50%以上がプラスチックという場合にプラスチック製の袋と思うが、他のものを配合して含有率が50%以下であればプラスチック製の袋の概念から外れるという解釈でいいのか。あくまでもスムーズにトラブルなく客に渡すかということが前提で聞いている。

(事務局)

- 商品として、プラスチック製の袋を販売することを禁止することはできないと考えています。
- 「つながりの意識」というお話がありました。見解の相違と思っていますが、ちょっとしたことから、側溝から、水路から川へ流れて、という悪意はないにしても、流れてしまう現状があるので、そういうことにならないように、ごみを流さない、発生抑制という観点で書かせていただきました。
- バイオマスのお話がありましたが、前々回の会議でも触れましたが、有料で配布できるのはバイオマス由来で生分解性の高いもの、という分類をしたもので、条例では分解されるバイオマスプラスチックとしています。前回までの協議を基に今回の表現にしたところです。

(一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会)

- 中小の小売業者の方は、レジ袋をスーパー等に行かれて購入されている。実際問題、レジ袋を有料化すると、以前から申し上げているとおり、サッカー台にあるビニールロールの袋の消費量が4~5倍になる。販売される袋は激増する。これが本当にプラスチックごみ対策になっているのかという問題意識がある。
- バイオマスについて、バイオマスは生分解性と同じ位置づけなのか、有料で配布してくれということだと思うが、バイオマスがプラスチックに入るのか生分解性に入るのかわからないところ。
- 我々はいつまでも、弁当やおでんを代替のものでやろうと思っていない。切り替えたタイミングで必ず客とトラブルになる。その結果、心無い言葉をかけられる従業員はいるので、その精神的なケアが一番大きな問題。
- 周知していただく間は、温めたお弁当やおでんなどはまずはバイオマスを使ってください、最初は無償でいいですよ、その後有料ですよ、1年後にはそれも含めて禁止ですよ、と段階的なステップを踏んでやってもらうのが、一番、客と従業員とのトラブルを避けられるのではないかと。それは国の審議会でもそういう意向を示させていただいている。最終的に禁止に反対しているわけでもなく、段階を経てくださいと言うこと。
- 紙はOKとなると、紙の内側がビニールコーティングされているものもある。それは紙袋の扱いなのかプラスチック袋という扱いなのか。

- ・ 条例がどうなるかに合わせて、加盟店が袋を準備、調達しなければいけない。その準備もあるので、バイオマス100%だったらOKと仮になったら、それを調達しなければならない。申し訳ないが来年4月にはとてもじゃないが無理。その猶予期間をいただきたい。4月に条例ができるのはいいが、8月1日から施行というが、半年程度の余裕をいただけないか、ということ。そこまでは妥協する、と理解いただければ。

(会長)

- ・ 事務局はしっかり検討していただき、改善できるところは改善していただきたい。
(一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会)
- ・ 第12条の違反者の公表は、事業者だけが対象になっている。第9条で市民等と事業者
に助言指導するとしている。市民等は違反することがないという前提なのか。

(事務局)

- ・ 違反者の公表の対象は、勧告に従わなかったり、プラスチック製レジ袋の配布禁止と生
分解でも無償での配布禁止に違反した場合であり、そういう条文構成になっています。
(一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会)
- ・ 繰り返しになるが、ポイ捨てした人間が一番悪い諸悪の根源だが、それにもかかわらず
事業者だけが対象なのか。

(事務局)

- ・ この条例ではそうっており、プラスチック製レジ袋の配布禁止と生分解でも無償での
配布禁止に違反した場合です。もう一つポイ捨てに関しても議論が進んでおり、ポイ捨
てについても強い罰則付きの条例について検討を進めています。両輪で社会のルールを
作っていきたいと考えているところです。

(一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会)

- ・ もう一点だけ。ちょっと写真を見ていただきたい。我々も悩んでいることがあり、コン
ビニが無償で配っているから悪いという議論になるが、コンビニもごみ箱を設置して客
のごみを回収しており、全て弊社の費用負担で処理している。
- ・ 写真は、亀岡市内にあるコンビニの店頭のごみで、いつのものかという先日
の亀岡市の花火大会の後。店頭の駐車場に亀岡の客がごみを捨てる。これを花火大会が
終わった後で店の従業員が全員総出で分別をして、袋に詰めて、ごみの収集運搬に出
している。これが莫大な費用になる。業者からは、来年からはこの量のごみなら追加
料金が必要と言われている。
- ・ 前回の亀岡の花火大会で皆さん分別に協力いただいたとのことだったが、足元は
こう。これを夜な夜な片づけている従業員や弊社の身にも、少しはなっ
ていただきたい。
- ・ 来年からレジ袋がなくなると、今は袋に入っているから片付けやすいが、裸で捨
てられたらタチが悪い。レジ袋禁止もいいが、一方で見えないところで苦しんで
いる業者がいることにも目をそむけないで、現場の問題点にも目を向けて
いただきたい。

(事務局)

- ・ 花火大会のこの写真は見るだけでもひどい状態です。これは条例案というよりも、

花火客のモラルということもあります。環境先進都市を目指していますので、この案件だけでなく、そういう指導を花火大会の時にも、実行委員会の時にも話して、こういうことが極力起こらないよう、部としても指導をしていきたいと考えています。

(一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会)

- 花火大会が終わった後、この写真も市の担当にお伝えしたと聞いているが、何の回答もいただけなかったと聞いている。ポイ捨て禁止も一緒に、この条例と一緒に取り組んでいただきたい。

(保津川の世界遺産登録をめざす会)

- 花火大会で、エコステーションを市の商工観光課から依頼を受けてボランティアスタッフとして10年程、従事しているが、ここ3年ほど、うまくできない状態が続いていた。市は昨年12月13日にプラごみゼロ宣言を行った。せっかくいいことをするのだから、市全体としてやっていただきたい。なぜこの協議会に商工観光課が入っていないのか。来年には京都スタジアムも完成し、大河ドラマもあり、より多くの観光客が来る。なぜ市の他の人間が入っていないのか。市が一丸になってやらないと、市民の理解は得られない。
- 市が一丸となってこうします、こうなんだ、ということを示すと市民もついていくと思う。また、ごみを減らすとメリットがある、市民に還元できるシステムを構築すれば、市民の理解が得られると思う。

(事務局)

- 今年については、協議会はこの34団体でスタートしました。こういった問題も会議の中で出てきました。今年についてはこういう議論が出ていることは環境先進都市を目指している市長に伝えますし、この会議が今後の花火大会や観光にいい影響が出るように私たちが努めていきたいと考えています。

《協議・報告事項》

(事務局説明)

(2) 部会の設置について

《報告事項》

(1) 使い捨てプラスチックごみ削減に関するアンケート結果

(2) 楽天クラウドファンディングの実施について

KAMEOKA FLY BAG Project(ワークショップ)について

(かめおか霧の芸術祭実行委員会説明)

- 文化芸術による啓発周知活動というところで責任を感じている。条例にも関係するが、市民にどれくらいの意識を持って参加していただけるか、私たちの市民一人ひとりへのリーチが託されているミッションだと感じている。このプロジェクトは、パラグライダーの生地を使ったもので、とにかくマイバッグ持参率を上げることに特化したもの。パラグライダーの生地を1枚のパッチワークに仕立てて、7月に亀岡駅北口で巨大クレー

ンで釣り上げた。それをもう一度解体して、約200名に参加していただき、一人ひとりにマイバッグを作っていただく1日限りのワークショップをガレリアかめおかで開催させていただく。私たちの文化芸術が、皆様が今まで考えなかったことを考えるきっかけになり、市民の行動や意識を変えていくところに、しかも喜びや楽しさを携えながら取り組んでいきたいと思う。参加料がかかるが、チラシを10月1日に全戸配布を行う予定。たくさんのマイバッグが亀岡の中で広がって、持っていただくきっかけにしてほしい。

◇岸副会長あいさつ

- ・本日も長時間にわたり熱心な御議論をいただいた。
- ・これまで5回の協議会で、条例案の骨子や方向性を議論してきたが、今回、条例の素案が示された。今後まだ、たくさんの議論が必要だと思うが、よろしく願います。
- ・先日、ラグビーワールドカップを観戦しに行ったが、試合終了後、誰が動くともなく、自然発生的に、ごみの清掃が始まった。日本の環境に対する意識、美化活動の意識が、世界のメディアでも賞賛されている。翻って、レジ袋、過剰包装の意識に関しては、イタリアの話もあったが世界の各国に模範を示していただきたいと思う。
- ・今回、条例案を示されたが、市民にお知らせするパブリックコメント、市民周知に向けて、まだまだ議論が必要であると考えている。来年3月議会上程まで時間がないが、まだ詰めた話が必要であると感じている。
- ・今日はたくさんの方が傍聴に来ていただいた。気が付いた点があれば、また事務局に伝えていただきたい。

◇閉会